

秋田市中心市街地活性化基本計画

(計画期間 20年7月～26年6月)

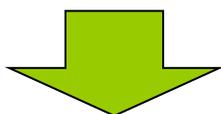
※ 期間延長適用後

【中心市街地を巡る状況】

○秋田市中心市街地は、江戸時代に久保田城築城とともに、政治・経済の拠点として発展

○昭和30年代の県庁、市役所等の郊外移転により商業地として発展

○平成に入り郊外の大型店の進出や中心市街地内にあった病院の移転により急速に空洞化が進む。



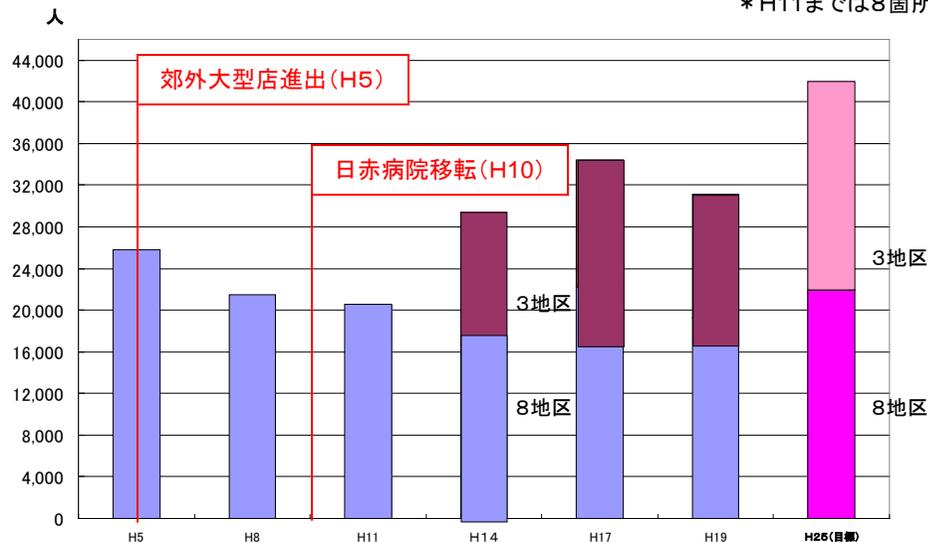
○中心市街地の小売業年間商品販売額
H6: 1,057億円→H16: 534億円(△50%)

○中心市街地の歩行者・自転車通行量
H5: 25,808人→H19: 16,103人(△38%)

【目標】

| 目標 | 指標 | 現況値 (H19) | 目標値 (H25) |
|-----------------|------------|-----------|-----------|
| 訪れる人による賑わいづくり | 歩行者・自転車通行量 | 31,157人 | 42,000人 |
| 住む人による賑わいづくり | 定住人口 | 3,381人 | 3,600人 |
| 商店街の活力による賑わいづくり | 小売業年間商品販売額 | 522.4億円 | 610億円 |
| | 空き店舗数 | 25店舗 | 7店舗 |

歩行者・自転車通行量の推移と数値目標 * 調査地点11箇所
* H11までは8箇所



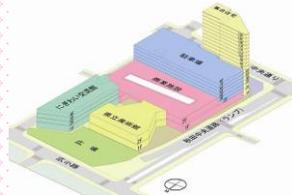
千秋公園(久保田城跡)と連携した多機能集客ゾーン(商業、医療、福祉、文化等)を形成し、生活しやすく、賑わいのある中心市街地づくりを目指す。

秋田市中心市街地活性化基本計画の事業概要

市街地の再整備

○中通一丁目地区市街地再開発事業

長く空き地だった旧日赤病院跡地を千秋公園と一体となった街なかオアシスを開発コンセプトに、商業モールや住宅、文化施設、大型公共駐車場を設置。



○秋田駅前北第一地区市街地再開発事業

駅前の低未利用地を事業パートナーにより、一括して効率的に開発を行い中心市街地の玄関口としてふさわしい整備を行う。

○千秋公園整備事業

全国都市再生モデル調査を基に市民有志などの幅広い参画による公園の再活性化を図るとともに、焼失した黒門等の再建整備を行い名勝にふさわしく市民の誇りとなる公園とし、中心市街地と連携したイベントの場として活用。



医療拠点の整備

○ホテル併設型医療モール整備事業

ホテルに併設した商業施設を改装し、医療テナントをミックスすることで、滞在型の医療モールを整備。



医療モール設置予定ホテル

○秋田県循環器医療提供拠点施設(新センター)整備事業

成人の脳血管疾患と循環器疾患を対象に、研究機能を併せ持つ専門病院を現在地で機能強化し再整備。



現循環器センター

商業の活性化

○仲小路タウンビークル環境整備事業

中心市街地内の集客エリアである秋田駅西口と中通一丁目地区間(約500m)を往復する低床式タウンビークルを運行し、街なかの回遊性を高める環境整備を実施。



○買物ポイントによる駐車場無料利用システムの導入

中心市街地の加盟店舗で購買金額に応じてポイントを発行し、中心市街地内の駐車場代金として利用可能とする。当日買い物をしなかった人も過去のポイントを利用することができる。

○中心市街地出店促進事業

中心市街地に新たに出店する事業者に対し優遇措置を実施。

- ・中心市街地出店促進融資あっせん制度
- ・中心市街地出店促進補助制度

○中通一丁目再開発商業施設取得事業

再開発事業に際してまちづくり会社が床を取得し、テナントミックスにより商業モールを運営。